

レインボー通信

第2号

April
2025

桜の起源と 古代の日本における象徴

桜が日本で最初に登場したのは、奈良時代（8世紀）に遡るとされています。『万葉集』という日本最古の和歌集には、桜の花を詠んだ歌が多く収められており、当時から桜は美しさを象徴する花として歌われてきました。万葉集における桜は、春の訪れを告げる花として重要な位置を占めており、特に「桜花（おうか）」として詠まれています。

桜が日本で象徴的な存在となった背景には、古代の人々が自然の美しさを讚え、自然との調和を大切にしていたことがあります。桜はその瞬間的な美しさが特に強調され、花が咲く時期に見せる儂さが、生命や季節の移ろいを象徴するものとして人々に深く受け入れられました。この儂さの中に美を見出し、その存在に意味を感じることが、日本人独自の感性を形作っていったのです。

桜と春の風習・行事

桜が日本文化に深く根付いた背景には、様々な風習や行事が関係しています。特に有名なのが「花見」です。花見は、桜が咲く時期に家族や友人と一緒に桜の木の下で集まり、食事やお酒を楽しみながら花を愛でる日本の伝統的な行事です。この花見文化は、桜の花を楽しむだけでなく、集まった人々と共に季節の

移り変わりを感じ、絆を深める機会として大切にされています。

花見を通じて、人々は自然の中で一緒に時間を過ごすことに喜びを見出し、生活の中に美を感じるとともに、桜が象徴する「儂さ」や「今」を大切にすることを再確認します。また、桜の花を見ながら詩を詠んだり、音楽を楽しんだりすることで、桜を単なる花としてではなく、文化的な深みを持つ存在として感じ取ることができます。

レインボーハイツではコロナ禍の時期を除き、毎年4月にお花見茶会を催しています。天候に恵まれた年は中庭にて野点をし、桜を愛でながらお茶を召し上がっていただいています。今年もこのレインボー通信が発行される時期に、皆様と中庭の桜の下でお茶をいただきながら春の訪れを共に楽しむことを心待ちにしております。



レインボー Heightsで 迎える三年目の春

A 610 宮原 越子

私はレインボー Heightsの一室に住んで三年目の春を迎えました。

レインボー Heightsは兵庫と大阪の県境に位置する郊外にあり、新しく開発された高級住宅地の中にあります。私の部屋の六階のベランダからは視野が広く見え、季節折々変化する北摂の山なみは私の心を癒し、落ち着きを取り戻してくれます。

「山なみを越えていづこへ送電線」
この街は散歩道に恵まれていますが、花の季節桜の通りを通って伏見池公園を1周するコースは格別です。

「さくさくと芝を踏む音春の音」
去年は初夏になって残念ながら肺炎になり、入院する羽目となりました。病室から見える高速道路は現代の忙しさを感じます。
「白鷺の急降下する夏川面」
「すだれ吊る向鉢巻初老の夫」
残暑酷しく秋も短かく感じました。
しかしながら、コーラスの発表

会や懇親会そして小旅行等楽しい事もありました。

「ハーモニーロビーに流れ菊香る」
「奈良ホテルアインシュタイン秋日和」
「志賀直哉旧宅たずね庭の萩」
師走に入りめっきり風も冷たい時期になると、散歩道も途切れがちですが、がんばる日もありました。

「出窓にはシクラメン咲く佇まい」
12月30日は主人の正月の命日です。子供が墓参りに私を迎えに來ます。一年無事に過ごせた事を感謝し喜びを分かち合います。

そして迎えた新年。1月には初釜茶会に参加し、静寂の中での思いを込めました。炉の湯のたぎる音や、お点前の所作の美しさに心が落ち着き、改めて日本の伝統文化の素晴らしさを感じました。

2025年が明るく楽しく調和のとれた一年なることを願いながら、三年目の春を迎えます。

新春を寿ぐ、初釜お茶会

1月21日、レインボー Heightsで新春の「初釜お茶会」を開催しました。お菓子には新春にふさわしい花びら餅をご用意。平安時代に由来するこの和菓子には、長寿と健康を願う意味が込められています。

参加された皆様からは、「上品な甘さで美味しかった」「心が落ち着いた」との声が寄せられ、新年の穏やかなひとときを過ごしていただきました。



年男年女と迎える 節分の豆まき

節分の日、レインボー Heights恒例の豆まきを開催しました。職員が鬼と福娘に扮し、太鼓の音とともに鬼が登場すると、皆様は「鬼は外！福は内！」の掛け声とともに豆を投げ、鬼退治を楽しみました。

その後、福娘が豆やお菓子を配り、笑顔あふれる和やかな時間となりました。最後には年男・年女の皆様を中心に記念撮影を行い、無病息災を祈願。今年も皆様にとって笑顔の多い一年になりますように！



俳句・川柳・短歌

俳句

A 908 中井明日美

竹林へ日をあそばせて春隣
雀二羽三羽砂浴ぶ寒日和
手の平に故郷をのせ芹・なづな
朝練のサッカー一発冬を蹴る
凍て返る闇に尾を曳く救急車

皐月句会

(自選句)

A 812 池上 武

寒ぶりを肴でついに三杯目
屠蘇少し頬の赤らむ孫娘
白手袋の剣先き光るフェンシング

B 521 大川 昭子

青空や蠟梅の香の好きな径
寒の餅黒豆入れて母想う
待ちくれしふるさとの山雪かぶる

A 408 堤 治

寒月や外湯帰りの下駄の音
積ん読をまた積みなほす去年今年
凍蝶も垣根に止めて売家なる

A 408 堤 千恵

はるかなる嶺の重なり初日さす
ざくざくと踏む音高し霜柱
おしどりの水輪重ねし日の面

A 403 中西登美子

寒灯のぼつんとひとつ島の宿
寒夕焼靴ぶらさがる竿の先
初旅や讃岐の富士を子に教え

A 805 榎崎 秀子

大震災の思いもあらた寒に入る
縮細工なのでどんどへ焼べずおく
この格好で御免と御慶大浴場
木下道ひとむら石路の花明り
スノーピーの振袖姿今朝の春

A 806 福岡マルミ

初詣祈りをこめてみくじ引く
ダイヤ富士五湖に映えたる初日の出
久しぶり湯豆腐囲む一家族

A 201 藤本 牧子

未だまだの元気の証年賀状
乙女ら駆ける都大路は寒日和
穏やかな大寒の入り今朝も晴

A 911 吉川 公雄

藁苞や緋の色深し寒牡丹
数の子の音を肴にひとり酒
神苑の闇に漂ふ淑気かな

川柳

A 910 西原 玉

月初め忘れてならぬ保険証
ジビエ料理興味持つ人ちと不気味
来客に時間知らせる鳩時計
竹食べて冬眠したことないパンダ
監視カメラただ見てるだけ捕まえて

短歌

B 622 伊村 恭子

住宅街ポツリ残った100坪の田
傍ら行けば稲穂の香りす
大当たり鐘が鳴らされ鍋バケツ
大はしゃぎした戦後の歳末
震災の瓦礫の中から救われた
友は昨年病で逝つたと
ゴキブリに生まれたばかりにひとたき
殺されたくはなかつただろうな



コンネミニ喫茶 & トロンボーン「ソロボーン」コンサート

2月28日、コンネミニ喫茶とトロンボーン・ソロコンサートを開催しました。ケーキとコーヒーマスター・紅茶を楽しみながら、男声合唱団ウイステリアの立岡様による演奏を堪能。

『シング・シング・シング』などの世界の名曲から、『ルビーの指輪』『川の流れるように』などの日本の歌謡曲まで幅広いプログラムが披露されました。温かな音色に包まれながら、心とらぐひとときをお過ごしいただきました。

